

OKI

マルチ・キーテレホン*IP*
簡易操作マニュアル

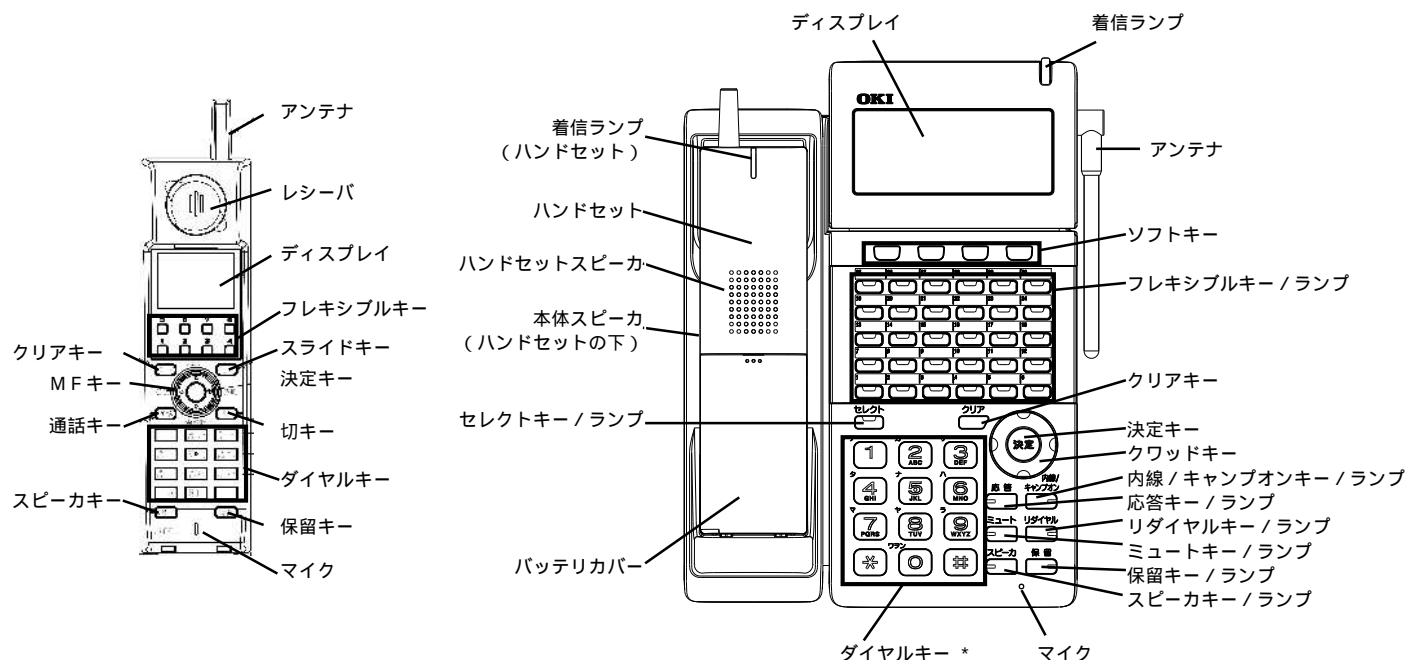
M K T / I P - 3 0 D K C L

2 0 1 5 年 1 0 月

第 1.00 版

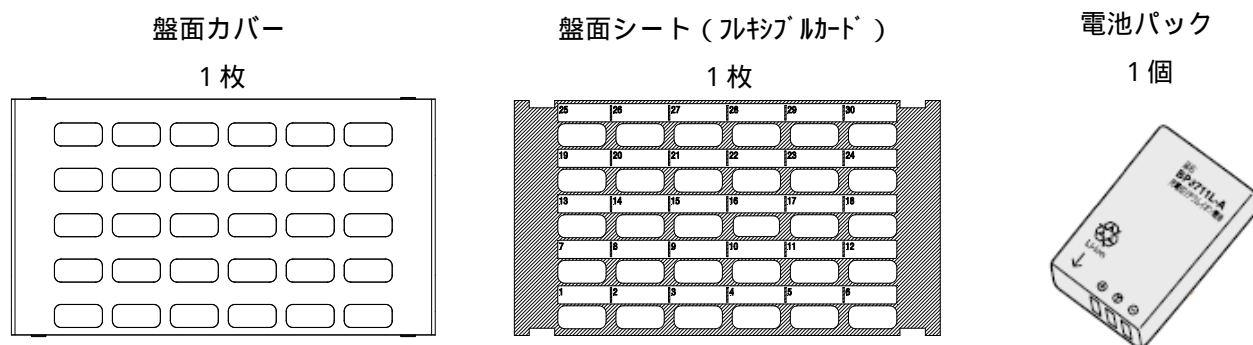
沖電気工業株式会社

1. 各部の名称



* ダイアルキーの斜め上に記載されている「ア」「カ」などの小さな文字は、ダイアルキーで文字を入力するときに、各キーに割り当てられている文字（「ア行」「カ行」・・・）を表しています。

2. 添付品



本装置は SS9100、DISCOVERYneo 等の主装置システムに接続して使用することができます。
各機能詳細、および本書に記載されている以外の機能については、主装置の操作説明書を参照してください。

3. 安全上のご注意

この「安全上のご注意」には、お客様への危害や財産への損害を未然に防止するために、守っていただきたい事項を示しています。

本装置をご使用の前に、本文をよくお読みいただき、正しくご使用ください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に必ず保管してください。



次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険性が想定される内容を示しています。

- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- 付属、あるいは指定のＡＣアダプタ以外を使用しないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- タコ足配線はしないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- 周囲に発火性、腐食性のガスがある場所で使用しないでください。爆発、火災、感電、故障の原因となります。
- 開口部から内部に金属類を差し込んだり、落としたりしないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- 万一、内部に水などが入った場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、取扱店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
- ＡＣアダプタのコードに重いものを載せたり、加熱したり引っ張ったりしないでください。コードが破損し、火災、感電、故障の原因となります。
- 本装置を分解・改造しないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- 本装置の上や近くに花瓶、コップ、化粧品、薬品、植木鉢等、水の入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災、感電、故障の原因となります。
- 電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの端子に金属などが触れると火災、感電、故障の原因となります。
- 近くに雷が発生したときには電源プラグをコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。落雷によっては、火災、感電、故障の原因となります。
- 万一、本装置を落としたり、キャビネットを破損した場合は、電源プラグを抜いて取扱店にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電、故障の原因となります。
- 煙が出ている、異臭がするなどの場合は、直ぐに電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認して、取扱店に修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因となります。
- 医療用電気機器や自動ドア、火災報知器等の自動制御機器の近くに設置したり、近づけないでください。電波が影響を及ぼす場合があります。誤動作による事故の原因となります。
- 「LAN」ポート、「PC」ポートに接続したネットワークケーブルを商用電源、アナログ電話回線、デジタル電話回線（ISDN）、PBXデジタル電話回線には接続しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 内部の点検・修理は、取扱店に依頼してください。

⚠ 注意

次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるような場所、及びちりほこりの多い場所には置かないでください。火災、感電、故障の原因となることがあります。
- 本装置は、精密な電子部品で出来ていますので、衝撃、振動の加わる場所での使用、保存は避けてください。誤動作、発熱、故障、破損の原因になります。
- ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 直射日光の当たるところやストーブなどの発熱する機器の近く、湿度の高いところでの使用、保存は避けてください。誤動作、発熱、故障、破損の原因になります。
- 強い磁界、電波を発生する機器の近くでの使用、保存は避けてください。誤動作、発熱、故障、破損の原因になります。
- 本装置の無線部は、動作時に高温になることがあります。手や体を触れないようにご注意ください。やけどのおそれがあります。
- 電源プラグをコンセントから抜くときは、必ずプラグ本体を持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷ついて火災、感電、故障の原因となることがあります。
- 壁掛け用に取り付ける場合は重みにより本装置が落下しないよう、専用の取り付け器具を使用し、指定の方法で取り付けてください。落下すると、けがの原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、回線コードなど外部の接続線を外したことを確認の上、行ってください。コードを引っ張るとコードが傷つき、火災、感電、故障の原因となることがあります。
- 水滴がついたら乾いた布で拭き取ってください。内部に入ると火災、感電、故障の原因となることがあります。
- お手入れの際には安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
- 本装置を清掃するときは、揮発性のあるシンナーやアルコールおよびシリコン系クリーナなどの使用は絶対に避けてください。変色、変形の原因になることがあります。水を含んだ布をかたく絞って拭いた後、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 各装置には、それぞれに同梱された電源コードセットを使用してください。
- 各装置に同梱された電源コードセットは、他の装置に使用しないでください。
- 高い信頼性を要求される幹線通信機器や電算機システムでは使用しないでください。誤動作により社会的に影響を与えるおそれがあります。
- 本装置に接続したケーブル配線を通路等、人が通る床の上にむき出しにしたまましないでください。ケーブルにひっかけて装置が落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本装置を積み重ねて使用しないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本装置の通風孔を塞いだ状態で使用しないでください。誤動作、発熱、故障、破損の原因になります。
- 落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。
- 本装置に接続されているネットワークケーブルを強く引っ張らないでください。故障の原因となることがあります。

その他、設置・ご使用にあたってのお願い

- 本装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適正な対策を講ずるよう要求されることがあります。
- 停電などの外的要因、あるいは本装置の故障、誤動作、不具合によって通信などの機会を逸したために生じた逸失利益等の金銭的損害につきましては、当社はその責任を一切負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本装置を、人命に重大な危険が及ぶような高い安全性が必要とされる環境下では使用しないでください。
- 本装置に登録された内容は故障・修理のときに消失する場合があります。
- テレビ、ラジオ、無線機、電子レンジ、インバータ形蛍光灯などの磁気、電波を発生する場所、放送局の近くや違法無線を受ける場所に設置した場合、ノイズや誤動作を引き起こすことがあります。
- P o E 給電を行わない場合、別売の A C アダプタが必要です。
- A C アダプタをテレビ、ディスプレイ等の近くに設置しないでください。画面が乱れる原因となる場合があります。
- 雷が多い地域において、雷対策を実施する場合には取扱店にご相談ください。

4. 仕様

表 1 MKT / IP - 30DKCL 仕様概要

項 目		仕 様
ネットワークインタフェース		1000BASE-T、100BASE-TX、10BASE-T
ネットワーク伝送距離		100m
給電方式		・ ACアダプタによるローカル給電 (DC 12V) 使用電源 : AC 100V (50Hz/60Hz) ・ IEEE802.3af 準拠機器による PoE 給電 (DC 48V)
消費電力		6W以下 (ACアダプタでの消費分は含みません)
設置形態		卓上 / 壁掛け
使用温湿度	温度	0 ~ 40 (子機充電時 5 ~ 35)
	湿度	20 ~ 80 %RH
保存温湿度	温度	-10 ~ 50
	湿度	10 ~ 90 %RH
寸法		約 200mm (幅) × 260mm (奥行) × 97mm (高さ) (※) 子機を親機に搭載した状態
質量		親機 : 約 0.9kg、子機 : 約 0.2kg

表 2 MKT / IP - 30DKCL 無線仕様概要 (DECT方式)

項目	諸元
無線周波数帯	1.9GHz帯 (1,894.8 ~ 1,903.4MHz)
変調方式	GFSK
チャンネル間隔	1.728MHz
チャンネル数	5チャンネル
パケット長	416.6μs
通信方式	TDMA方式
変調信号伝送速度	32kbps (音声)
音声符号化方式	ADPCM
送信サイクル	10ms

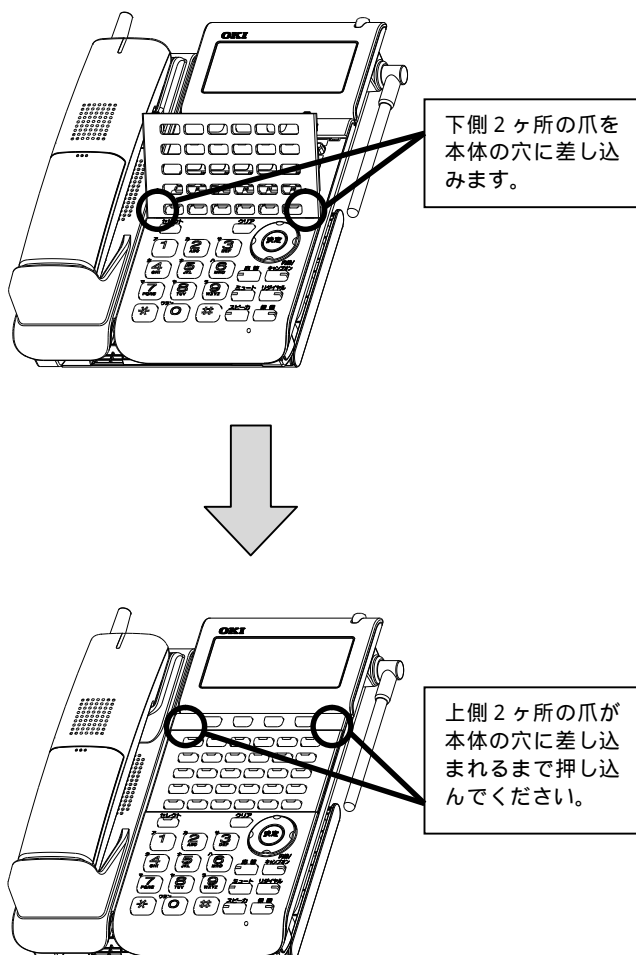
5. 電話機の調整

(1) 盤面カバーの取り付け、取り外し方

盤面カバーの取り付け方

盤面カバーは、下側 / 上側どちらからでも取り付け可能です。

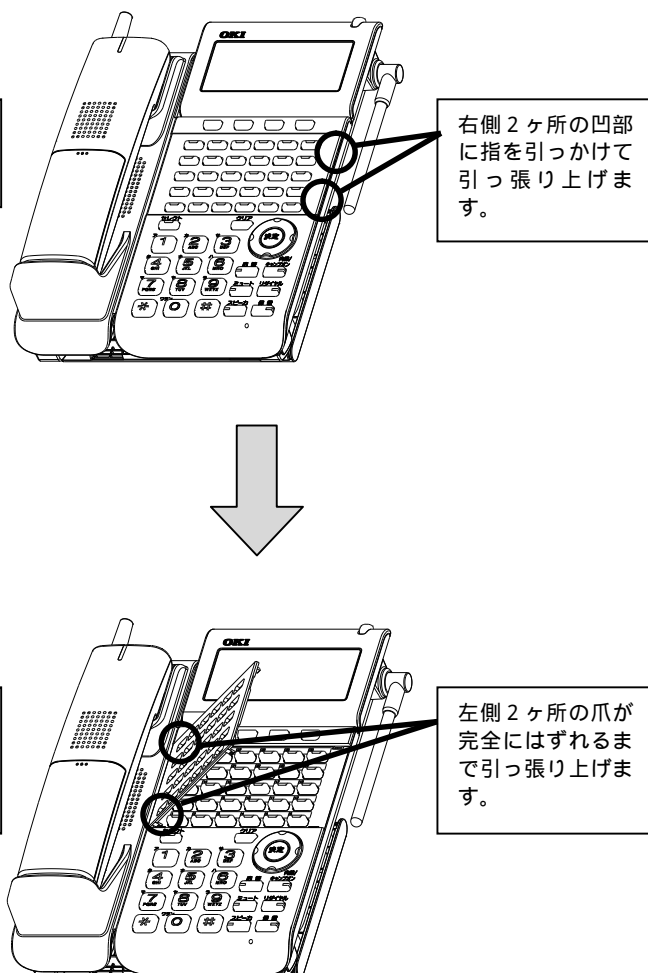
図は下側からの取り付け方を示します。



盤面カバーの取り外し方

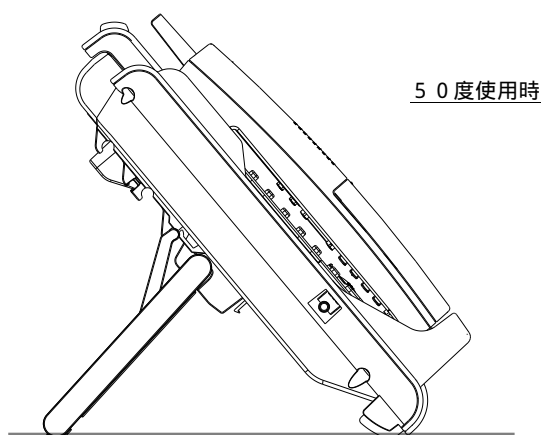
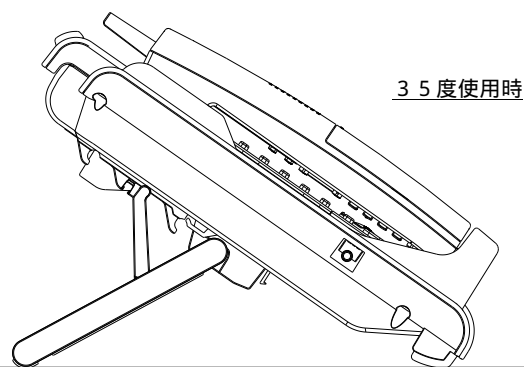
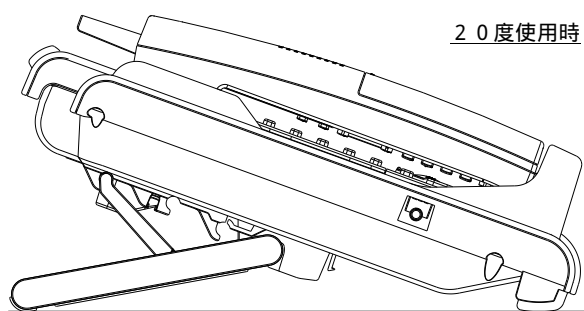
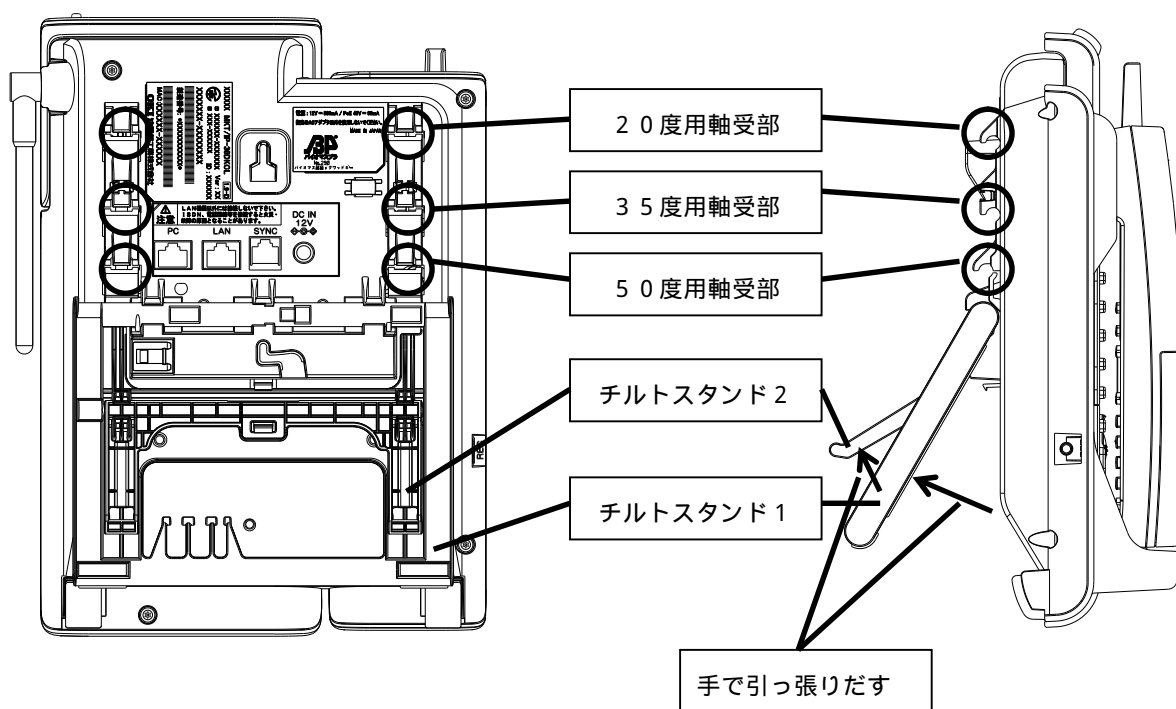
盤面カバーは、右側 / 左側どちらからでも取り付け可能です。

図は右側からの取り付け方を示します。



(2) スタンド使用方法

スタンドは、3種類の角度（20度、35度、50度）で使用できます。必ず3種類のいずれかの角度で使用してください。0度（平置き）の場合、子機の充電不良が発生する可能性があるため、0度（平置き）では使用しないでください。

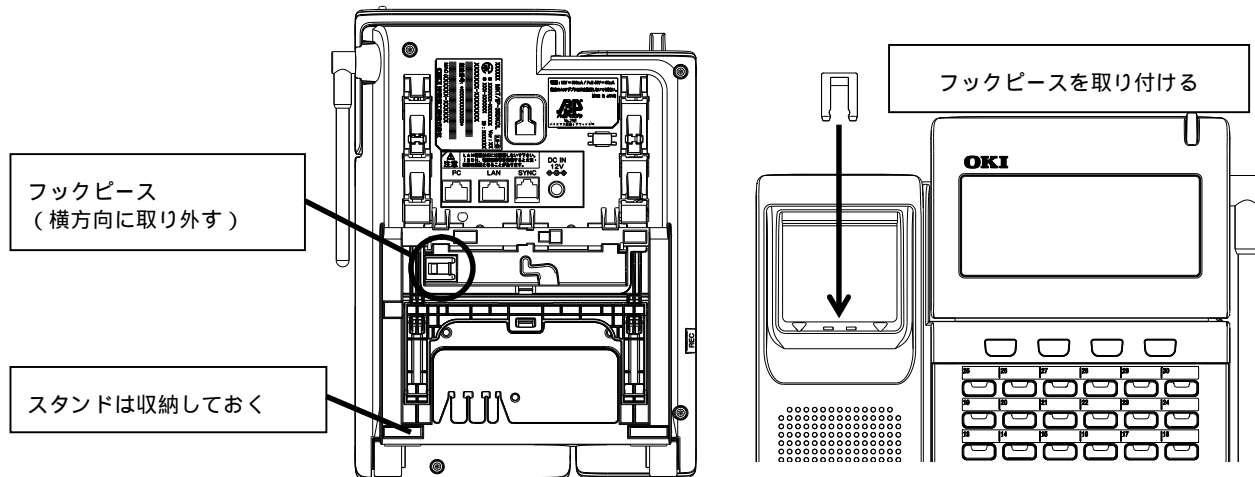


(3) 壁掛け方法

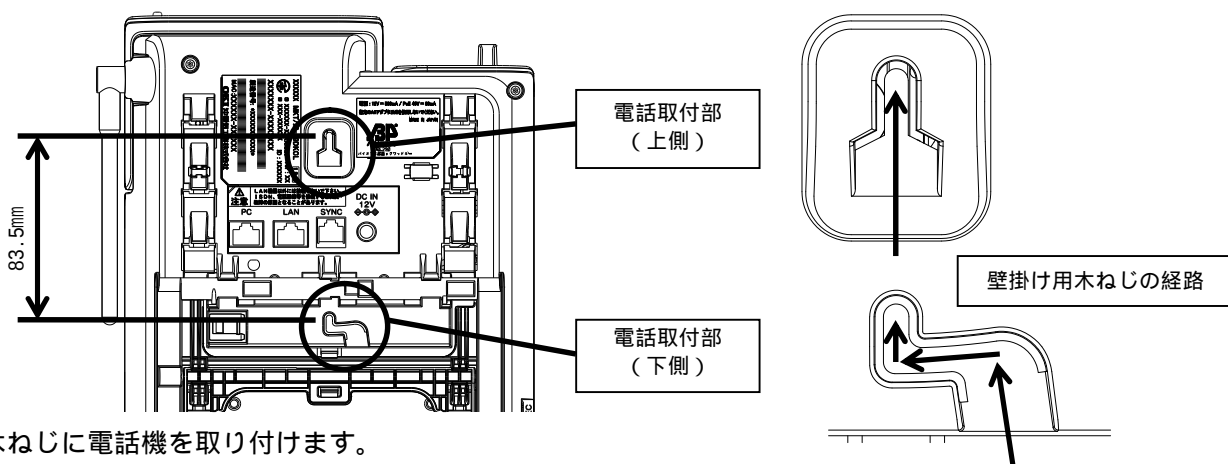
電話機の底面に付いているフックピースを横方向にスライドさせて取り外します。

電話機のハンドセット収納部にフックピースを取り付けます。

スタンドは収納した状態とします。

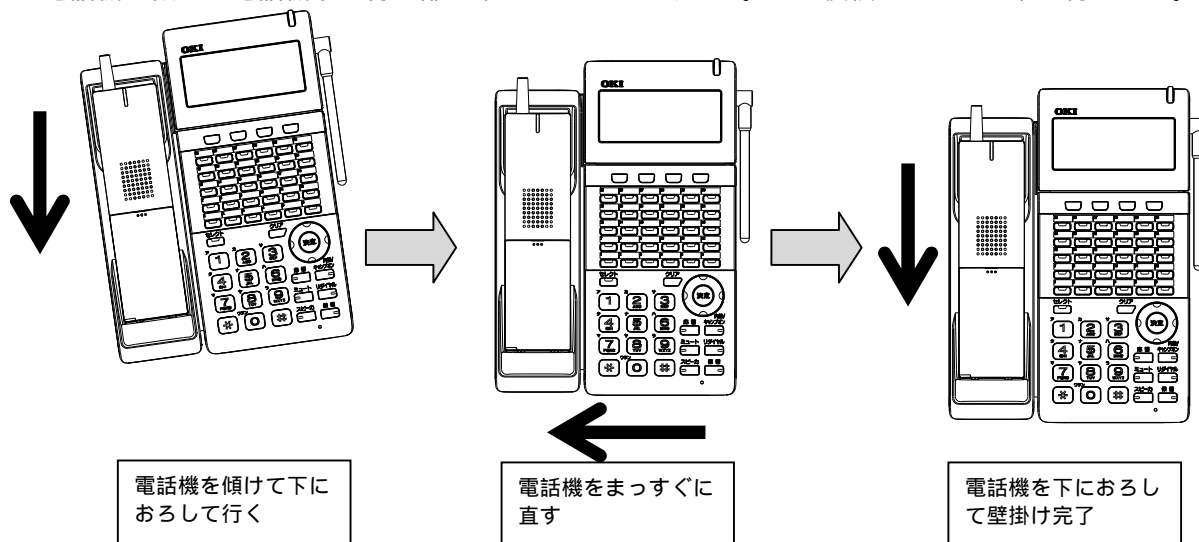


電話機を取り付ける壁へ木ねじ(2本)を取り付けます。木ねじは縦に 83.5mm 間隔で取り付けます。
(ねじは添付していません。別途手配してください。推奨サイズ：呼び径 3.8mm)

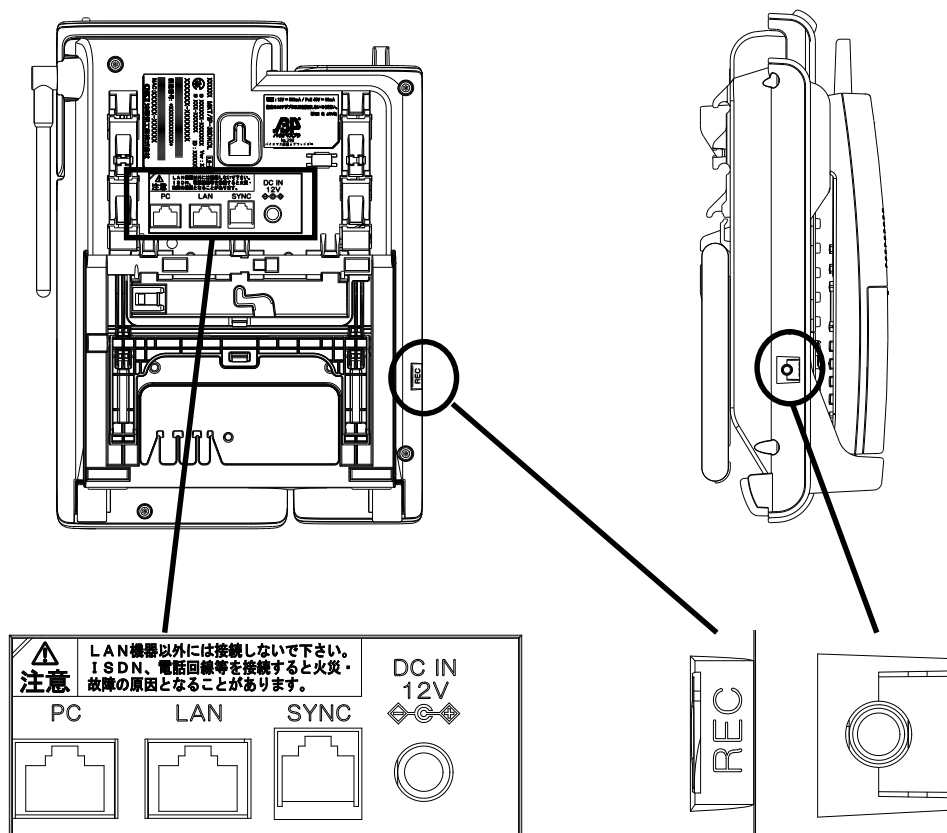


木ねじに電話機を取り付けます。

電話機を傾けて電話機取り付け部を木ねじに差し込みます。その後横にずらして取り付けます。



6. 外部入出力端子



注意 LAN機器以外には接続しないで下さい。
ISDN、電話回線等を接続すると火災・故障の原因となることがあります。

DC IN : 専用の AC アダプタを接続します。
PoE 給電時は何も接続しないでください。

SYNC : 同期装置に接続します。

LAN : スイッチング HUB 等に接続します。

PC : パソコンに接続します。スイッチング HUB には接続しないでください。

REC : 通話録音機能を使用するとき、レコーダ等を接続します。使用しない時には、何も接続しないでください。

7. 着信音量 / 受話音量を調節する

7.1 着信音量を調節する

電話がかかってきたときに鳴る音（着信音）の大きさを調節することができます。

待受状態のとき決定キーを押します

メインメニューが表示されます。

「音設定」をクワッドキーの上下で選び、決定キーを押します

	メ	イ	ン	メ	ニ	ュ	ー												
	電	話	帳																
	通	話	履	歴															
>	音	設	定																

音設定メニューが表示されます。

「着信音量」が選択された状態で、決定キーを押します

	音	設	定	メ	ニ	ュ	ー												
>	着	信	音	量															
	受	話	音	量															
	マ	ル	チ	ラ	イ	ン	着	信	音	色									

着信音量を調節する画面が表示されます。

着信音量を調節します

	着	信	音	量															

クワッドキーの上下を押すごとに、音量が1段階ずつ変わります。（8段階）

決定キーを押します

着信音量が設定されます。

子機から聞こえる受話の大きさを調節することができます。

メインメニューが表示されます。

[illegible][illegible]

受 話 音 量									
									

受話音量が設定されます。

選択項目が多いメニューでは、クワッドキーの上下でカーソルを移動すると、メニューがスクロールし表示されていない項目を選択できます。先頭と最後の項目はつながってスクロール表示されません。

8. 電話をかける / 受ける / 転送する

電話をかける / 受ける / 転送の方法は、システム設定によって、操作が異なる場合があります。

8.1 電話をかける

(1) 外線にかける

子機を上げます

ランプが点灯していない外線キーを押します

ランプが緑色になります。

使用中の外線キーのランプは赤点灯しています。使用されていない外線をご利用ください。

相手の電話番号をダイヤルします

相手が応答したらお話しします

外線キーはフレキシブルキーに割り当てられています。

外線キーのかわりにダイヤルキーの「0」を押しても外線へかけられます。

この他にも、リダイヤルキー、ソフトキー、短縮ダイヤル、電話帳から電話をかける方法があります。詳しくは、主装置の操作説明書をご覧ください。

(2) 内線にかける

子機を上げます

相手の内線番号をダイヤルします

相手が応答したらお話しします

8.2 電話を受ける

(1) 外線からの電話を受ける

外線着信音が鳴り、外線キーのランプが赤色で点滅します。

子機を上げます

点滅している外線キーを押します

相手とお話しします

フレキシブルキーの設定方法は主装置の操作説明書をご覧ください。

(2) 内線からの電話を受ける

内線着信音が鳴ります。

子機を上げると、相手とお話しできます。

- (3) 近くの電話に内線電話がかかっている場合
子機を上げます
代理応答キーを押します
代理応答キーは、フレキシブルキーに割り当てられています。
相手とお話します

8.3 電話を転送する

- (1) 外線を保留してから転送する
外線通話中に、相手に待っていただくよう伝えます
例)「電話を転送しますので少しお待ちください」
保留キーを押して、子機を戻します
転送する人に声をかけます
例)「××さん、外線○番に ○さんからお電話です」
声をかけられた人は、子機を上げ、○番の外線キーを押して応答します
再度電話を取る場合は、○番の外線キーを押すことで、元の相手との通話に戻れます。
- (2) ダイヤルで転送する
外線通話中に、相手に待っていただくよう伝えます
例)「電話を転送しますので少しお待ちください」
転送先の内線番号をダイヤルします
転送先が応答しなかったり、話し中の場合は、フックスイッチを押すことにより、元の相手との通話に戻れます。
転送先が応答したら、電話を転送する旨を伝え、子機を置きます。

9. ディスプレイ

9.1 バックライトの色を選択する

ディスプレイのバックライトの色を、白または青のどちらかに設定することができます。

待受状態のとき、決定キーを押します

メインメニューが表示されます。

「サービス設定」をクワッドキーの上下で選び、決定キーを押します

	メ	イ	ン	メ	ニ	ュ	ー										
	通	話	履	歴													
	音	設	定														
>	サ	ー	ビ	ス	設	定											

サービス設定メニューが表示されます。

「バックライトベース色切替」をクワッドキーの上下で選び、決定キーを押します

	サ	ー	ビ	ス	設	定	メ	ニ	ュ	ー							
	端	末	I	D	確	認											
	R	O	M	バ	ー	ジ	ョ	ン	確	認							
>	バ	ッ	ク	ラ	イ	ト	ベ	ー	ス	色	切	替					

バックライトベース色を選択する画面が表示されます。

メニューの下の方の項目は、クワッドキーの下を押してカーソルを移動させると表示できます。

バックライトの色をクワッドキーの上下で選び、決定キーを押します

	バ	ッ	ク	ラ	イ	ト	ベ	ー	ス	色	切	替					
>	ホ	ワ	イ	ト													
	ブ	ル	ー														

バックライトベース色が設定されます。

9.2 ディスプレイの濃度を調節する

ディスプレイに表示される文字を、濃くしたり薄くしたりすることができます。

待受状態のとき、決定キーを押します

メインメニューが表示されます。

「サービス設定」をクワッドキーの上下で選び、決定キーを押します

	メ	イ	ン	メ	ニ	ュ	ー										
	通	話	履	歴													
	音	設	定														
>	サ	ー	ビ	ス	設	定											

サービス設定メニューが表示されます。

「LCD濃度切替」が選択された状態で、決定キーを押します

10. その他の主な機能

表 3 その他の主な機能

機能	説明
キャンプオン	内線発信時に相手が話し中の場合、内線 / キャンプオン キーを押すことにより、相手の内線が空き次第、自動的に呼び出します。
ミュート	通話中にミュート キーを押して、こちらの声を相手に伝わらないようにすることができます。
電話帳	最大 2 0 0 0 件まで登録することができます(個別電話帳 1 0 0 0 件、共通電話帳 1 0 0 0 件)。電話帳から名前を検索して発信することができます。
発信 / 着信 履歴	それぞれ 2 0 件まで保存されます。履歴から電話帳へ登録することや、履歴から発信することができます。2 0 件を超えると古い履歴から自動的に削除されます。
スピーカ受話音量	電話機のスピーカ音量を調節することができます。
キー操作音	キータッチトーンの有 / 無を切り替えることができます。
送話音量	子機の送話音量を 5 段階で切り替えることができます。
マイク音量	子機のマイク音量を 3 段階で切り替えることができます。
ハンズフリー切替	子機 (スピーカ受話のみ) とハンズフリーの選択を行います。

11. お問合せになる前に

本装置が正しく動作しない時、故障と思う前に下記のことについて確かめること。

- (1) 正常に動作しない MKT/IP-30DKCL に、正常に動作している LAN ケーブルを差し込み、動作を確認する。
- (2) 正常に動作しない MKT/IP-30DKCL に、正常に動作している MKT/IP-30DKCL の AC アダプタを差し込み、動作を確認する。

表 4 症状と確認項目

症状 1	症状 2	確認項目
“ ツー ” という音が聞こえない。	ディスプレイに何も表示されない。	電源ケーブルの抜け、接触不良が考えられる。しっかり入っているかを確認する。
	ディスプレイに「SEARCHING x」と表示されたまま。	この表示がしばらく続く様であれば、電話機が主装置に接続できていないことが考えられる。 電話機のネットワーク機能設定、ネットワークの構成、主装置までのスイッチング HUB、リピータ HUB の動作、接続を確認する。
	ディスプレイに「LINK FAILED」と表示されている。	ネットワークケーブルの抜け、接触不良が考えられる。しっかり入っているか確認する。 また、HUB 側のポートを入れ替えてみる。 HUB の「アップリンクポート」（HUB 同士を接続するポート）に電話機の LAN ポートをストレートケーブルで接続はできないので、通常のポートに接続し直す。
こちらの声が相手に伝わらない。	「ミュート」LED が点灯している。	「ミュート」LED が点灯しているときは、こちらの音声は相手に伝わらない。 「ミュート」ボタンを押して、ミュートを解除し使用すること。
通話がとぎれる。 雑音が多い。	電話機がリピータ HUB に接続されている。	リピータ HUB に収容されている電話機やパソコンが多く、パケットのトラフィックが高い場合、音声パケットの伝達が遅れてしまうことがある。 同一コリジョンドメインの収容台数を多くとも 8 台程度以下に減らすか、スイッチ方式の HUB に変更する。 (本装置が HUB に 8 台接続できることを保証するものではない)

P C ポートに接続したパソコンがネットワーク接続できない。	パソコンのリンク L E D が点灯していない。	ネットワークケーブルの抜け、接触不良が考えられる。しっかり入っているか確認する。
	ディスプレイに「L I N K F A I L E D」と表示されている。	ネットワークケーブルの抜け、接触不良が考えられる。しっかり入っているか確認する。 P C ポートに接続したパソコンをネットワークに接続する場合、L A N ポートが H U B に接続されている必要がある。この場合、L A N ポートのリンクが成立していないことなので、L A N ポート側のケーブルの接続を確かめること。

12. お問い合わせ窓口

本書の記述で不明な点がございましたら、主装置の操作説明書をご覧ください。本装置の運用・保守に関する疑問や質問、あるいは主装置の操作説明書の記述で不明な箇所がありましたら、本装置を購入されました取扱店までお問合せください。

OKI 沖電気工業株式会社



使用済み製品を廃棄する場合は、廃棄物処理法に基づいた処理が必要です。廃棄・リサイクル処理についてのお問合せは、営業または取扱店までご連絡ください。